

## あとがき

本論文提出現在、筆者は栃木県立足利南高等学校の教職に就いている。日常の業務をこなしながら、昨年7月までは教員採用試験の勉強に時間を取られ、なかなか研究を進めることができなかった。さらには勤務が6ヶ月を経過した頃からだんだんと職務も増え、研究と勤務という二兎を追いかけることが、時には苦痛でもあった。しかし、昨年3月に定年退官された藤田和子先生には、その後も大宮でご指導を賜ることができ、時には厳しく、そして時には優しくアドバイスしていただいた。また、後期から復学して中村祐司先生のご指導も賜り、挫折しかける私を叱咤激励していただいた。

その頃には研究も遅ればせながら本格始動し、職場に大量の研究資料・文献を持ち込んで、勤務終了後の夜間、煌々と明かりを点けながら研究を進めていた。そしてようやく昨年12月には草稿が完成し、中村先生に提出することができた。その後の冬期休業中は草稿の校閲を行い、本年1月の論文提出までこぎ着けた。ここに至るまでには多くの、本当に多くの挫折や失敗を繰り返した。しかしこうして一本の論文として形を整えると、暗い過去は遠い彼方に追いやられてしまう。本論文は非常に拙いものであるかもしれない。しかし、それも筆者の不勉強によるものだとすれば後悔したくもなるが、今後の過程における一里塚と見なせば、多少の慰めにはなるかもしれない。そして多くのご迷惑をおかけした関係者にも、一つの御礼として形を残すことができたと思う。

最後になったが、筆者からの疑問を丁寧に答えてくださったアジア経済研究所の佐藤百合氏、松井和久氏、数度に及ぶインタビュー、加えてジャカルタで大変お世話になった Aida Joesoef Ahmad 氏、在インドネシア日本大使館員の W 氏、論文執筆のために多大なるご協力を仰ぎ、かつご迷惑をおかけしてしまった栃木県立足利南高等学校教職員各位、そして、定年退官まで3年間にわたり熱心に指導して下さった藤田先生、学部3年生時代からなにかとお世話になっており、本論文提出に際して様々な指導をしていただいた中村先生には、心からお礼を申し上げたい。

(平成18年1月5日)